

# 石川県立美術館だより

平成15年8月1日発行 第238号



フランソワ・ミレー 畑からの帰り  
(2ページ「企画展示室(第7~9展示室)」参照)

石川県立美術館開館20周年記念

## ミレー、コロー バルビゾンの巨星たち展

7月25日(金)~8月17日(日)会期中無休

## 茶道美術名品展

7月17日(木)~8月17日(日)会期中無休



蒔絵蜻蛉図中次

### 目次

ミレー、コロー、バルビゾンの巨星たち展 ...2	月例映画会今月のイチ押し .....5
茶道具と名物裂 .....3	美術館の本、県美Q & A .....6
茶道美術名品展 .....3	貸出中の所蔵品、各地の展覧会 .....6
常設展示室 主な展示作品 .....4	企画展TOPIC、8月の行事案内他 .....7
美術館小史・余話(36)、展覧会回顧(北野恒富展)...5	所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信 ...8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

ミレー、コロロー

バルビゾンの巨星たち展

7月25日(金)~8月17日(日)会期中無休

主催/北陸中日新聞・石川県立美術館・石川テレビ放送

後援/フランス大使館・石川県・石川県教育委員会

金沢市・金沢市教育委員会・NHK金沢放送局・エフエム石川



鳥の巣を捕る子どもたち カミーユ・コロロー 1872 73年頃

「星は昴(すばる)、牽星(ひこぼし)、太白星(ゆふづつ)、よばひ星(少しをかし)…」と詠ったのは清少納言でした。昴は天上に輝く星団で、肉眼では六、七個見ることが出来ます。西歐名はプレアデス(Pleiades)。これはギリシャ神話の巨人アトラスを父親に持つ七人の娘達のことです。この呼称から七星派と呼ばれるグループを西欧の文芸史の中でいくつか見ることが出来ます。バルビゾンの七星もその一つです。

七五)は、ともに後世の画家たちに深い影響を及ぼした偉大な画家といえましょう。

そしてルソーやディアズ、トロワイヨンなど「バルビゾンの七星」と呼ばれる画家たちは、それぞれに個性的な境地を開き、深い郷愁を湛えるその穏やかな情景は、現代に生きる私たちに、日々の生活の中で忘れてかけている自然へのノスタルジーを呼び起こしてくれます。



フォンテーヌブローとバルビゾン村の地図

なかでも、農民たちの日々の営みを真摯なまなざしで見つめたミレー(一八一四~七五)、自然の風景を豊かな詩情で謳いあげたコロロー(一七九六~一八

十九世紀の中頃、都会の喧噪を離れパリ郊外のフォンテーヌブローの森の近く、バルビゾン村に移り住み付近の自然の美しいたたずまいや農民の暮らしを描いたバルビゾン派の画家たち。彼らは屋外での観察にもとづく自然主義的な視点を貫き、のちに誕生する印象派の先駆けとなりました。



井戸から戻る女 フランソワ・ミレー 1855 60年頃

ルソー、ディアズ、トロワイヨン、デュプレ、ドービニー、ジャックラバルビゾンの七星、そして写実主義の巨匠クールベなど、三十一作家による一〇三点の名画を一堂にご紹介いたします。

この珠玉の作品群は、姫路市在住の実業家、中村武夫氏がその半生をかけて収集されたもので、個人所蔵のバルビゾン派コレクションとしては、その作品数・内容の両面において国内最高の誉れ高いものです。永年、「幻のコレクション」として、眼にふれる機会がほとんどなかったこれら秘蔵の名画は四年前に公開され、大変な驚きと讃辞をもって迎えられました。

むろん本県では初公開となります。この機会に叙情あふれるバルビゾン派の作品をご堪能ください。

観覧料	個人	一般	900円	団体(20名以上)
		高・大生	500円	
		小・中学生	300円	
		一般	1,100円	
当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧になれます。				



夕暮れの呼び声 アドルフ・ブルトン 1889年



雛菊を摘む女たち カミーユ・コロロー 1865 70年頃



扇を持つ女 ギュスターヴ・クールベ 1861年

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

# 茶道具と名物裂

7月17日(木)~8月17日(日)

加賀藩は歴代藩主が、文化政策に大変力を注いでおり、様々な美術工芸品が伝わっていますが、特に茶道具には優品が多く見られます。金沢は、東京、京都と並んで、お国もの(その土地で出来たもの)だけで茶会を開くことが出来ませんが、これも藩政時代から育んできた文化的土壌の賜物と言えるでしょう。コレクションの根幹となったのが、傑出した文化大名であった三代藩主利常の収集品です。利常に関わるエピソードを交えて、展示作品の一部をご紹介します。

利常そして四代藩主光高とも、茶の湯を通じて交流の深かったのが、数寄大名として知られる小堀遠州です。利常は遠州から多大な影響を受けており、収集品の中にも遠州好みの道具がよく見られますが、その一つが古瀬戸茶入 銘 孫六です。肩から裾にかけてふくらみがなく、ややどっしりとした印象の寸胴形の肩衝茶入です。表面の上半分に茶と黒飴の釉薬をたっぶりとかけてあり、下半分は茶褐色の胎土が露呈していますが、その釉溜りの濃淡が孫六の剣の焼刃のように見えることから、この銘がついています。茶入を納める挽家の蓋表と、内箱蓋表の「孫六」という書付は、遠州によるものです。

前田家の名物裂コレクションもやはり、利常の収集に始まります。寛永十四年(一六三七)、当時唯一の海外への窓口であり、舶来品の宝庫であった長崎へ、家臣と京都の目利きを遣わせて、価がまわず買いたたと言われています。中でも最も古く珍重されたのが、小石畳地宝珠形鳳凰雲文様金襴(興福寺金襴)です。名物裂の中でも最も古いものとしてあげられるのがこの裂で、興福寺が開基のときに、唐から贈られた戸帳に使われていたという伝承から、この名で呼ばれています。銀襴であるとも言われ、銀は金箔の脱落を防ぐために、箔下に置かれたとの説もありますが、現在はその銀箔もほとんど残っていません。宝珠形の内部に雲文と鳳凰を組み合わせた品格のある裂です。

当館の茶道美術は、山川美術財団の寄附作品を核としてしています。金沢の素封家山川家が三代にわたって収集世したものです。言つまでもなく野々村仁清の「色絵雄香炉(国宝)」は初代甚兵衛の収集ですが、このコレクションの大きな特色は、香合の質の高さとその種類の豊富さにあります。「和蘭陀白雁香合」(県文)は、オランダのデルフト窯で作られ、江戸時代初頭にわが国に舶載しました。その優雅で愛らしい趣が好まれ、茶人が香合に見立てたもので、古来より名高い名品です。また、仁清の「色絵花笠香合」は、仁清の技の冴えを示す薄作りのシャープな器体に、青、赤、緑の彩色と金彩を駆使した艶美ともいえる華やかな作品です。そのほか「黄瀬戸根太香合」(前号の所蔵品紹介)、「志野桔梗香合」、「飴釉蟹五角香合」(初代大樋長左衛門作)等の和物香合や、「交趾金花鳥香合」、「宋胡録柿香合」、「古染付張甲牛香合」、「呉須染付松皮菱香合」等の唐物香合を展示します。また作品の取り合わせに季節感を感じ取っていただければ幸いです。

蒔絵蜻蛉図中次(表紙)

桃山、江戸時代

円筒形で合口が胴の途中にあるこのような茶器を中次といえます。全面に平蒔絵と絵梨地で群れ飛ぶ蜻蛉が描かれています。大胆に表現された蜻蛉は、小さな茶器の表面を飾るというより、悠々と大空を飛び交っているような迫力に満ちており、この中次の存在の大きさをより強調しています。一足早い初秋の訪れを感じていただけるのではないのでしょうか。

刷毛目茶碗

李朝時代

鉄分の多い胎土に、内外ともに勢いのある白泥の刷毛目がしっかりとめぐり、口辺の一部が内反し、全体が小判形に歪むその姿には茶味があり、涼味を誘う夏の茶事にふさわしい趣が感じられます。



刷毛目茶碗 李朝時代

常設展示室 第2展示室)

特集

# 茶道美術名品展

7月17日(木)~8月17日(日)

常設展示室

# 主な展示作品

7月17日(木)~8月17日(日)

● = 国宝 = 重要文化財  
 = 石川県指定文化財  
 = 重要美術品 = 金沢市指定文化財

## 前田育徳会展示室

特集 茶道具と名物裂  
 古瀬戸茶入 銘孫六  
 茶壺 銘春の日

唐茶臼

作土形草花文様金欄(大鶏頭金欄)

縞地梅花石畳宝尽し段替り文様緞子(伊予簾緞子)

縞格子文様間道(望月間道)

## 第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雄香炉

野々村仁清  
 野々村仁清

## 第2展示室

特集 茶道美術名品展

和蘭陀白雁香合 デルフト窯

飴釉蟹五角香合

青貝福祿寿図香合

黄天目

黄伊羅保茶碗 銘女郎花

竹時絵浪に亀図二重切花入

葫蘆様釜

古九谷

色絵布袋図平鉢

色絵鳳凰図平鉢

青手樹木図平鉢

## 第3・4展示室 日本画・油彩画・彫塑・造形

送電柱

初夏の花

寂寞

油彩画

ティチーノ寸景(スイス)

下村正一  
 濱田 観  
 原田太乙  
 田辺栄次郎

初夏の花 濱田 観



中村研一像 吉田三郎

白い断崖の岬

夏山

彫塑・造形

女(ポニーテール)

中村研一像

素描・下絵

おさげの少女

マライの少年(南方従軍素描集)

タイ・ビルマスケッチ(人物・風俗)

すずめ7羽

## 第5展示室(工芸)

金欄手愛獣譜飾皿

白鷺時絵箱

服飾 盛夏果実

砂張銅鑪

桑縁箴組風炉先

日の光に

## 第6展示室

特集 夏休み 親子で楽しむ美術館

美術の動物園

涅槃図

虎図

牛

牧歌

藤本東一良

宮本三郎

畝村直久

吉田三郎

南 政善

宮本三郎

高光一也

伊東 哲

北出塔次郎

寺井直次

金丸水明

金岡宗幸

水見晃堂

齋藤悦子

宝勝寺蔵

岸駒

上田珪草

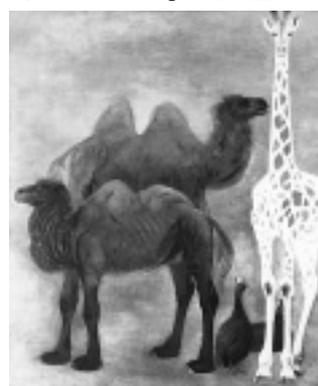
安嶋雨晶

宮本三郎

夏山 宮本三郎



牛 上田珪草



服飾 盛夏果実 金丸水明



一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	

観覧料

## 美術館小史・余話

36

嶋崎 丞 すむむ 当館館長

旧館開館二十周年記念「国宝 源氏物語展」を無事盛大に終えて、次に急いで取り組むべき仕事は、新館開設に向けての準備であった。

私共美術館職員は、新館が開設されれば当然吸収合併されるであろうし、私共なりの新館開設に対する考え方も持っていたので、いろいろと相談があるだろうと思っていた。ところが教育委員会内に設置された「近代美術館（仮称）の設置についての懇話会」を中心にして、美術館の規模、内容、建設場所等について検討が行われた。そこでは特に建設場所について話し合われ、二十一世紀を展望し将来の金沢の発展を考え、駐車場問題などを克服した大型の美術館を建設するには、広大な敷地が必要との見地から、郊外の西部緑地（北陸自動車道金沢西インター付近）が適当であるとす意見が発表された。私共にとってはまさに、寝耳に水という状態であった。

私がかねがね美術館や博物館は都市の文化や芸術を象徴するものであり、都市の中心部に位置し建設してこそ意味があると考えていた。伝統文化が色濃く残っている金沢のような都市にあっては尚更のことであるという信念を抱いていたので、これは何とかしなければならぬという責務に駆り立てられた。

今考えてみれば随分大胆不敵な行動をとったものだと思っているが、県会議員の何人かの方々に、私のこうした気持ちや率直に申し上げ、議会で美術館は都心に設置すべきだと発言して欲しいと依頼して回ったのである。本会議での議題にはならなかったが、常任委員会ではこのことが議論され、私は内心ほっとするものがあったが、上司からお叱りを受けるのでないかとびくびくするものがあった。

### 新美術館開設に向けて（一）

## 展覧会回顧

### 北野恒富展

金沢が生んだ美人画の巨匠



本展は、明治十三年に金沢で生まれ、近代日本の代表的な美人画家として知られる北野恒富の、画業の全貌を紹介しようとするもので、開館二十周年を記念する春の特別展として開催されました。新緑の映える季節に、華やかな美人画の世界は似合うのでは、とも思いましたが、実際会場を見渡してみると、明るい澄んだ色彩の品格ある表現も多く見られましたが、一方で、よく艶麗といわれるような独特の妖しい雰囲気や漂う作品も、ひときり目立っていました。とくに、明治末から大正の中頃にかけ描かれた女性像の中には、類魔的でエロティックなシズムを感じさせるものに、恒富の個性が強く発揮されていました。ですから、一般に「美人画」といわれてイメージされる表現とはちよつと異なり、初めてそれらの絵に直面された方は、きつと驚かれたのではないのでしょうか。もっともそうした表現が、当時、京都の画家たちの間で悪魔派と称され注目された点なのです。

一方、展示に関しては、作品が屏風や掛軸、冊子などの形態をとるものも多く、基本的にはガラスケースの中に展示するという方向で作業を進めました。各章の解説パネルや額装でアクリル板が入っているものは、極力ケースの外へ出して、間近で見ることができるようになりました。その分、作品の陳列順番が図録とはかなり異なり、とまどわれたかもしれせん。また、日本画という材質の性格上、作品保護のため照度を落とすことにより、見づらいという声もありました。そのほか展示に関してさまざまな指摘、ご助言をいただきましたが、そうした声を今後の展示に反映させていければと考えています。

## 月例映画会

### 今月のイチ押し

八月の月例映画会は、次の五本を上映いたします。

8月10日	美の美	コー・ミレー・クールベ	23分
8月17日	美の美	ロダン美術館散策	23分
8月24日	美の美	コー・ミレー・クールベ	23分
8月31日	美の美	ロダン美術館散策	23分
日本のこころ	浮世絵		30分

まず、十日と十七日の2回は、企画展示室で開催中の「ミレー、コー、バルビソンの巨星たち展」にちなみまして、文字通りミレーとコーを取り上げた《コー・ミレー・クールベ》を上映いたします。この作品は二部作ですので、やはり二部からなる、同時代の大彫刻家を紹介する《ロダン美術館散策》をセットにすることで、十九世紀フランス美術の状況を理解する一助となるものと思います。

さて、《コー・ミレー・クールベ》は、それぞれの代表作をたんに紹介することにとどまらない、バルビソンのとあるカフエに残されたコーらの落書きや三人の画家の写真などを使うことで、画家たちの行動や心理の内面まですくいあげようとするものです。風景を描くこと、それ自体がそれまで画家たちの桎梏であった宗教画や歴史画からの解放であり、それは王政から共和制へ、また産業革命の進行という大きな時代の変化のもと、中産階級の支持の中で生涯を終えたコー、敬虔なクリスチャンで喧嘩な都会から逃避した農民画家として生涯を費したミレー、そして政治活動にも果敢に行動をおこし、激動の社会情勢に身を投じたクールベの三人の人生と作品を是非ご覧下さい。

また、三十一日に上映いたします、《日本のこころ 浮世絵》は後に世界の美術にも大きな影響を与えることになる浮世絵の歴史、すなわち菱川師宣から喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、安藤広重と、彼らの代表作を適宜紹介しながら、絵師・彫師・刷師という分業からなるその制作工程を手順良くまとめられており、文字通り浮世絵の理解と鑑賞には最適と言えます。

（美術館の本）

前田育徳会展示室 開館記念名宝展 税込定価(円)	一、五〇〇
― 古典と現代 ― 花鳥風月展	一、五〇〇
― 加賀文化の華 ― 前田綱紀展	二、〇〇〇
ひと・ヒト・人物を描いて… 南政善回顧展	二、〇〇〇
石川県の人間国宝展	二、〇〇〇
西山英雄展 雄大な自然を描く日本画の巨匠	二、〇〇〇
石川県の工芸 ― 江戸時代から現代まで	二、〇〇〇
隅谷正峯展 ― 日本刀その神秘なる彩り―	二、〇〇〇
― 前田育徳会の名宝 ― 百工比照	一、五〇〇
開館10周年記念特別展 日本美の心	二、〇〇〇
石川の美術 ― 明治・大正・昭和の歩み―	三、九〇〇
四匠匠 中川一政・宮本三郎・高光一也・南政善の世界	二、〇〇〇
戦後日本の具象美術 ― 見えるものへのこだわり―	二、二〇〇
加賀大乗寺の名宝と月舟宗胡	一、〇〇〇
蒔絵・人間国宝 寺井直次の世界	二、〇〇〇
― 石川県立美術館所蔵 ― 茶道美術名品図録	二、五〇〇
加賀藩二代藩主前田利長の菩提寺 瑞龍寺展	二、三〇〇
15〜20世紀のロシア美術 イコンと絵画	二、〇〇〇
日本のわざと美展 ― 豊饒文化財とそれを支える人々	二、〇〇〇

前田利為と尊經閣文庫	二、〇〇〇
工芸作品と図案 ― 創造への思考―	二、〇〇〇
前田利家没後400年 利家が生きた 桃山時代の美術	二、五〇〇
没後26年 写実と幻想の巨匠 宮本三郎	二、三〇〇
初公開 欧州随一の日本美術コレクション ランゲン夫妻の眼	二、〇〇〇
― 石川県立美術館所蔵 ― 九谷百品図録(改訂版)	二、〇〇〇
彫刻家 吉田三郎展	二、〇〇〇
花の様式 ナンシー派展	二、二〇〇
花と緑の名品展 ― 自然との対話―	二、〇〇〇
日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界	二、二〇〇
鳥と語る 詩魂の画家 脇田和展	二、二〇〇

**最新刊**

北野恒富展	二、〇〇〇
石川県立美術館所蔵品図録	三、五〇〇

Q 常設展示室って、いつも同じ作品？

A 常設展示室の作品はずっと変わらないのですか。また展示される作品はどのようにして決められるのですか

A 常設展示の目的は、まず美術館の持つ所蔵品を公開することですが、特定のテーマなり、作家を取りあげた調査研究活動としての展示も含まれます。当館は県立美術館として、一室ごとに石川県の芸術世界を理解していただくために、作者の選定、作品の制作年代や形体、大きさ、材質、あるいは四季それぞれにふさわしい内容かどうかなど、様々な要素を加味しながら組み合わせを行っています。そして最も大切なことは、保存の観点から展示日数が制限されている作品も多いため、常に入れ替えを行っていることです。一般的に常設展示という言葉の響きには、いつも同じものを並べてあるという感じがあるかもしれませんが、

ミニシアムショップで販売中!!

郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。  
 ( ☎ 〇七六 二三一 七五八〇 )

Q 休館日はいつ？

A そのではなく、「雄香炉」や古九谷の一部を除いて、各展示室は目まぐるしく変化しているのです。

A 美術館は月曜日や祝日の翌日でもないのに休館していることがあり、知らずに行つてがっかりすることがあります。休館日はどのようなになっているのですか。

A 当館には特定曜日の休館日(定休日)がありません。とにかく展覧会開催中は無休で開館しています。そこで展覧会終了後、作品の展示替えが行われる時には、曜日に関係なく休館となるのです。ただし年末年始(十二月二十八日、一月三日)だけは例年お休みをいただいています。本紙には必ず月ごとの休館日を掲載しておりますし、「展覧会案内」には年間の休館日がすべて掲載されていますので、どうか必ずご確認ください。

貸出中の所蔵品

蝦蟇仙人図	東洋洋筆
展覧会 高岡の絵師	計一点
会期 堀川敬周とその弟子達	
会場 七月十二日(土)〜九月七日(日)	
会場 高岡市立博物館	

山の秋	玉井敬泉筆
白山図	玉井敬泉筆
計二点	

展覧会 白山を愛した画家 玉井敬泉	
会期 七月十二日(土)〜九月二十一日(日)	
会場 八月二十日(水)〜九月二十一日(日)	
会場 鶴来町立博物館	

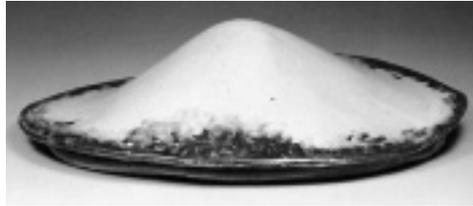
鉄打出狛犬大置物	山田宗美作
鉄打出布袋置物	山田宗美作
鉄打出蓮図花瓶	山田宗美作
計三点	

展覧会 鉄打出 山田宗美の世界	
会期 七月二十六日(土)〜八月三十一日(日)	
会場 加賀市アートギャラリー	

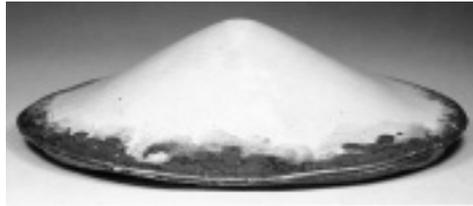
各地の展覧会

八月

開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。	
モリス・ドニ展	8/31まで
新潟県立近代美術館(新潟県長岡市) 〇二五八二一八四一	8/31まで
アートオブスターウォーズ展	8/31まで
京都国立博物館(京都市) 〇七五五四二一	9/21まで
クリムト展	9/21まで
兵庫県立美術館(神戸市) 〇七八二二六	9/21まで
近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展	8/31まで
和歌山県立美術館(和歌山市) 〇七三三	八六九〇
親子のための美術展 動物、アートとなる	8/31まで
群馬県立館林美術館(館林市) 〇二七六	八一八八
ジブリがいっぱい スタジオジブリ立体造型物展	9/7まで
東京都現代美術館(江東区) 〇三三	五二四五 四一一



(朝)



(昼)



(暮)

三態暮朝 富士山香炉 朝 暮 三態  
蔵館念山 島 野々村仁清作 富山 石川

企画展 TOPIC

「島山記念館名品展」その二  
「野々村清の見た富士・島山即翁の選んだ清

左の三枚並んだ写真を「覽下さい。手で触れたら変形してしまいそう。柔らかな形に見えますが、これらは島山記念館所蔵のやきもので、「錆絵富士山香炉 朝・昼・暮三態」という名称が示す通り、朝・昼・暮それぞれの富士山の様子を表現したものです。作者は、当館を代表する名品としてのみならず、日本の近世陶芸における代表作として名高い、国宝の色絵雑香炉と重要文化財の色絵雌雄香炉を制作した、野々村仁清です。

個人的に、この香炉を最初に目にしたのは、平成四年に、当館で開催された「野々村仁清展」の時でした。幅がそれぞれ三十センチというかなり大振りなこの香炉を見たとき、これまでの仁清作品に対するイメージとの、あまりの違いに驚かされました。

仁清は、名高い茶人、金森宗和の指導を受けたことで、その美しい色付と、精巧なモデリングによる、典雅で装飾性豊かな作風を展開しました。桃山時代の侘び茶の美意識とは違った、江戸時代の華やかな大名茶を彩るに相応しいものとして好まれたのでしょう。多くの日本人にとって富士山とは、不動の確固たるイ

メージがあると思われませんが、この作品を制作するに当たって仁清がとらえたのは、瞬間ごとに様相を変える移ろいやすい富士であったようです。光と影による幻影を時間で切り取って表現するということは、当時の陶芸の分野において、かなり実験的な試みであったと言えるでしょう。ひよっとすると、注文により、華麗にして典雅な茶陶を作り続けていた仁清にとって、シンプルに白釉と錆絵のみで表現したこの作品こそが、仁清のアーティスティックな衝動から生まれたのでは、とも思えます。それにしても取り合わせの難しそうなこの作品を、コレクションとして加えた島山即翁の柔軟な感性には本当に敬服させられます。

この作品が当館で展示されるのは今回で三回目です。最初は昭和三十八年、石川県美術館の開館記念展。このときはまだ島山家のコレクションではありませんでした。次が前述の野々村仁清展、そして今年度の島山記念館名品展となる訳ですが、この三態の富士を選んだ同じ目によって、収集されたコレクションと共に当館で展示されるのは、今回が初めてのことです。

八月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月日	行事	内容	会場
8/1(金)	親子で鑑賞会	絵画を探ろう！ 小学校5・6年生	午前十時より 講義室
8/2(土)	土曜講座	日本画のいろいろ 美術の動物園から	(宮衛 学芸第一課長) 講義室
8/3(日)	CDコンサート	20世紀の名指揮者 ヘルベルト・フォン・カラヤン2 ハイドン 交響曲第104番「ロンドン」ほか(約60分) 演奏 ヘルリン・フィルハーモニー管弦楽団	ホール
8/9(土)	土曜講座	日本の金工15 銅鑪 初代魚住為楽・三代魚住為楽(南 俊英 学芸第一課長)	講義室
8/10(日)	月例映画会	コロ・ミレー・クールベ 画家はなぜ風景を描くのか(23分)	ホール
8/17(日)	月例映画会	ロダン美術館散策 職人の手がかむ永遠のとき(23分) コロ・ミレー・クールベ 彼らは究極には人間を描いた(23分) ロダン美術館散策 神の手と地獄の門(23分)	ホール
8/23(土)	土曜講座	洋画家列伝15 香月泰男 (二木伸一郎 学芸専門員)	講義室
8/24(日)	講演会	「中町進の世界」を語る 講師 中町 進氏(日本画家・金沢美術工芸大学名誉教授)	ホール
8/28(木)	列品解説	「日本画家 中町進の世界」展 常設展の入場料金が必要になります 講師 中町 進氏	第4 展示室
8/30(土)	土曜講座	いわさきちひろの世界 (寺川和子 学芸主任)	講義室
8/31(日)	月例映画会	日本のこころ 浮世絵(30分)	ホール

八月の全館休館日は十八日(月)・二十日(水)です。

次回の展覧会

特集 加賀藩の美術工芸(前田育徳会展示室)  
特集 俳画の世界 (第2展示室)  
特別陳列 日本画家 中町進の世界 (第4展示室)  
八月二十一日(木)〜九月二十九日(月)

「開館20周年記念 島山記念館名品展 茶道美術を中心に」  
十月四日(土)〜十一月三日(祝)

の香炉が、即翁に選ばれた他の道具たちと並んだとき、どのような空間が演出されて、またどんな物語を紡ぎ出してくれるのでしょうか。

茶道美術を観る楽しみの一つは、自分自身の取り合わせを考えることでもあります。もしもこのコレクションを持っていたら、何と何を組み合わせようか。近代の大数寄者、島山即翁のコレクションの数々は、さぞかし私たちをそんな楽しい空想の世界に誘ってくれることでしょう。

(寺川和子 学芸主任)



縛  
坂 坦道

大正9年(1920)~平成10年(1998)

昭和47年 1972

第4回改組日展

高193.5 幅52.0 奥行44.0(cm)

若い男の立像ですが、両手・両足を縛られています。この像の形態から思い出されるのは、キリスト教図像学でいう、「聖セバスティアヌスの殉教」です。彼は、キリスト教の伝説的殉教聖人であり、伝承によればローマ皇帝ディオクレティアヌスに仕えたミノ出身の近衛兵であったといわれています。三世紀末に、信仰を貫いた故にローマで矢をもって一度は射殺されました。その後、一寡婦の看護により蘇生し、再度棍棒により撲殺され、遺体はカタコンベに葬られました。キリスト教世界では、疫病に対する守護聖人とされています。中世初期には年配の軍人の姿であらわされ、ルネッサンス以後は、上半身あるいは全身を木または柱に縛られている美貌の青年として多く描かれています。

作者が、聖セバスティアヌスの殉教の作例を意識し

たかどうかわかりません。しかし、それは充分考えられることです。作者の彫刻には、物語性を色濃く反映された作品が多く、それが作者の強烈な個性になっています。なにか、指向するものが、画家の故鴨居玲の諸作品に相通するようなものを感じる人も確かにいるようです。この作品は、作者の代表作といつてよいでしょう。

作者の坂坦道は大正九年珠洲郡内浦町に生まれました。本名を晴嵐といい、父は洋画家の坂寛二で父の没後、北海道に転居し昭和十九年東京美術学校彫刻科を卒業しました。十八年第六回新文展に初入選、戦後は日展に出品し、三九年特選、五十七年日彫展で西望賞を受賞しました。同年札幌市市民芸術賞を受賞し、三十九年より北海道女子短期大学で講師を務め後進の指導にも当たっていました。平成十年に他界されました。

ミュージアムショップ通信

立秋…。とはなばかり、残暑厳しい日々が続いていますね。さて、先月開催された北京故宮博物院展は大盛況のうちに幕を閉じました。国宝級の至宝を含む約百四十点が展示され、歴代の皇帝が持つ権力の強大さをあらためて痛感しました。五千年に渡って受け継がれてきた中国の歴史と文化にふれることができ、感動しました。

今月は「手提バッグ」を紹介いたします。これまであった黒色と白色の二種類の他に、新色が加わりました。価格は二千円。国宝色絵雉香炉がデザインされたものです。当館開館以来、二十年間をともに歩んできたこの国宝色絵雉香炉。こちらにも歴史を感じます。よね？



「手提バッグ」  
(定価2,000円)

「中町進の世界展」関連行事

講演会 聴講無料  
演題 「中町進の世界」を語る  
講師 中町 進氏  
日時 八月二十四日(日)午後一時半より  
会場 当館ホール  
列品解説 常設展の入場料金が必要です  
講師 中町 進氏  
日時 八月二十八日(木)午後一時半より  
会場 当館第4展示室

休館日

八月十八日(月)二十日(水)

石川県立美術館だより

第一二二八号 平成十五年八月一日発行  
〒九一〇 〇九六三 金沢市出羽町二番一号  
TEL 〇七六(一三三)七五八〇  
FAX 〇七六(一三四)九五五〇